

## 1. はじめに

北海道日本ハムファイターズ（以下「ファイターズ」）による新球場建設構想の札幌市内での実現に向けて、来場しやすさという観点から交通アクセスを最重要視し、平成 29 年 4 月 13 日に「共進会場跡地周辺」と「北海道大学構内」の 2 箇所を候補地として提案を行い、ファイターズと協議を行ってきました。現状では、両候補地ともに建設地として難しさはあるものの、引き続き協議を継続していきたいと考えております。

一方、「道立真駒内公園」については、前述の候補地と比較し、交通アクセスの優位性が低いほか、冬季オリンピック・パラリンピックの招致において、スピードスケート等の競技会場としていたことから、新球場建設の候補地としておりませんでした。

しかしながら、この度、スピードスケートの競技会場については、帯広市での開催を最優先に議論することにしたことなどから、交通アクセスのほか、公園環境や周辺環境の観点から考慮すべき事項があるものの、「道立真駒内公園」において新球場の建設を検討することが可能となったと考えているところです。

そこで、「道立真駒内公園」において新球場の建設を検討する際のことを整理しましたので、これを踏まえてファイターズと協議を進め、また、市民の皆様の意見を伺っていきたいと考えております。

## 2. 基本的な考え方

### (1) 真駒内公園における整備

#### 《現状》

- 「道立真駒内公園」は、ピクニックや遠足、ウォーキングやマラソン、各種スポーツなどお年寄りから子どもまであらゆる階層に利用されており、近年の健康志向の中で、その役割はますます大きくなっている。〔出展：平成 24 年度特定課題評価調書（北海道）〕
- 年間の公園利用者数は約 60 万人（平成 28 年度）となっており、平成 22 年度に行われた利用者満足度調査では『満足・概ね満足』とする利用者が 86.9%に上っている。
- 公園内の主要施設としては、屋内競技場や屋外競技場等があるが、いずれも 1970 年代の建築であり、築後 45 年以上が経過している。今後、北海道は、屋内競技場の国立での建て替えを要望、屋外競技場を現状維持とする考えである。
- これらの施設については、「道立真駒内公園」の北側に配置されており、南側については広場や自然林といったみどりの空間となっている。

#### 《考え方》

- 「道立真駒内公園」内の施設は、当初の整備から大きく変わっておらず、築後 45 年以上が経過しているが、今後、施設の更新等を通じ、道民により一層活用され、満足度を高めていくことが必要と考える。
- 国においては、都市公園の再生・活性化を推進するため、民間事業者による飲食店等の整備や保育所等の設置に対する緩和といった都市公園法の改正（平成 29 年 5 月公布）を行ったところである。

- このような動きも踏まえながら、道民球団であるファイターズによる新球場建設の機会を捉えて、現状維持とされている屋外競技場を新球場として施設更新することにより、「道立真駒内公園」のさらなる機能向上を図る。
- 新球場の建設にあたっては、屋外競技場の場所を中心に検討を行うこととし、広場や自然林が広がる南側のエリアや既存樹木等のみどりについては保全を図る。

### (2) 真駒内駅前地区の取組との連携

#### 《現状》

- 真駒内駅前地区においては、南区及び真駒内地域の課題に対応するとともに、多様な地域資源を活かしたまちづくりを先導する取組として駅前地区の再生を図るため、駅前地区のまちづくりの目標と取組の方向を示すことを目的に『真駒内駅前地区まちづくり指針』を平成 25 年 5 月に策定した。
- 『真駒内駅前地区まちづくり指針』の実現に向けて、地域と協議しながら地域課題への対応や土地利用再編の方向性を検討し、『(仮称) 真駒内駅前地区まちづくり計画』を平成 31 年度に策定予定である。

#### 《考え方》

- 新球場の建設にあたっては、今後、予定している真駒内駅前地区の土地利用の再編の取組と連携する。



### 3. 検討にあたり考慮すべき事項

#### 《公園環境》

##### ○みどりの保全

- ・古木\*を始めとする現状のみどりや生態系を極力保全  
※25本（一般財団法人北海道体育文化協会 HP 参照）

##### ○公園の魅力向上

- ・施設更新に併せた新たな機能導入の可能性検討
- ・現状の公園利用環境の維持向上
- ・「道立真駒内公園」の歴史的経緯への配慮

#### 《周辺環境》

##### ○周辺道路への負荷軽減

- ・現状においても混雑が見受けられる周辺道路に対し、新たな負荷を極力軽減

##### ○周辺住宅地（閑静な居住環境）への影響軽減

- ・来場者が生活道路に入り込まない工夫
- ・騒音配慮
- ・景観配慮

#### 《交通アクセス》

##### ○多くの人々が来場しやすい環境の確保

- ・真駒内駅から「道立真駒内公園」（屋外競技場周辺）までの移動手段・移動経路の確保
- ・市内の多方面からアクセスしやすい交通手段の確保

### 4. 参考

#### (1) 「道立真駒内公園」の位置及び概要等

##### 《位置》

- ・所在地：札幌市南区真駒内公園 3-1 ほか

##### 《位置付け》

- ・都市公園法に基づく広域公園

##### 《施設概要》

- ・敷地面積：84.7ha
- ・施設所有者：北海道
- ・指定管理者：一般財団法人北海道体育文化協会
- ・供用開始：昭和 50 年 8 月
- ・主要施設：〔出典：一般財団法人北海道体育文化協会 HP 等〕
  - ✓ 屋内競技場（収容人員 10,770 人）
  - ✓ 屋外競技場（収容人員 17,324 人）
  - ✓ 小体育館
  - ✓ 札幌市豊平川さけ科学館（札幌市所管・管理）

##### 《利用状況等》

- ・公園利用者数：596,595 人（平成 28 年度）
- ・利用者満足度：平成 22 年度に行われた調査において、満足・概ね満足とする利用者が 86.9%。

##### 《土地利用規制の状況》

- ・第 1 種低層住居専用地域（容積率 80%、建ぺい率 40%）
- ・北側斜線高度地区

##### 《その他》

- ・埋蔵文化財包蔵の可能性あり

#### (2) 『真駒内駅前地区まちづくり指針』（平成 25 年 5 月策定）（抜粋）

##### 《基本方針》

- ・真駒内地域はもとより南区全体の拠点として、駅前地区の再生に向けた取組を展開
  - ✓ 通過型から人が集まる滞留・交流型の駅前地区へ
  - ✓ 駅前地区の活動と交流の広がりによって南区全体の魅力向上へ

##### 《基本目標》

- ・駅の拠点性を活かしたにぎわい・交流の創出
- ・安全で安心な暮らしを支える機能の確保
- ・多様なコミュニティ活動が展開する場の形成
- ・みどりと歴史を感じ、環境にもやさしい街並みづくり

##### 《将来的な取組の方向～土地利用の再編～》

- ・将来的な市有施設等の建替えの際、駅前地区の土地利用を計画的に再編し、拠点機能のさらなる向上と環境にやさしいまちづくりの実現を目指す
  - ✓ 多くの人々が利用しやすいよう、行政・公共サービス機能を地下鉄駅に近づけて配置
  - ✓ 生活利便機能や滞留・交流空間等の充実のため、民間活力の導入可能性を検討
  - ✓ 新たな機能配置に対応し、交通結節点機能の向上を検討
- ・以下についても検討し、駅前地区の総合的再生を目指す
  - ✓ 市有施設以外の更新動向を踏まえた連携・協調など、土地利用再編の区域の拡大
  - ✓ 滞留空間の充実など、駅前にふさわしい空間づくり
  - ✓ 施設更新に当たってのデザインの調整など、駅前の街並みの魅力向上
  - ✓ 地域熱供給の活用・発展など、環境にやさしいまちづくり